

新潟市若年層における自殺対策ワーキングチームのこれまでの取組について

田中恒彦（新潟大学）

1. ワーキング立ち上げの経緯

日本において若年層の主要な死因の中で自殺が占める割合は極めて高く、特に 15 歳から 39 歳の年代では自殺が死因の第 1 位となっている。これは、先進国の中でも特に日本に特有の現象である。このような現状に対応するためにこれまで取組がなされていたが、若年層における自殺については、他の年齢層と比べ減少率が鈍く、国としても若年層における自殺対策について重点的に実施するとされていた。また、若年層の自殺については、多様な背景要因を有していると考えられているものの、調査・研究が困難であること等の影響もあり、エビデンスについても乏しい状況である。新潟市では、平成 28 年度から 30 年度にかけ、大学生を中心とした若年層対策について検討を行い、「自殺予防のためのゲートキーパー養成テキスト」を作成し、テキストを活用した研修会を実施していた。

そのような中で、若年層の自殺や自殺関連行動については、低年齢化が進んでおり小・中・高校などの自殺対策について、新潟市教育委員会等と連携し、協働した事業などを検討するために令和 2 年度からワーキングを立ち上げ協議検討をしている。

2. ワーキングのメンバー

- ・新潟大学
- ・新潟市教育委員会学校支援課
- ・新潟市教育委員会教育相談センター
- ・新潟市こころの健康センター

3. 検討内容

〈令和 2 年度～3 年度〉

- ・若年層における現状と課題についての情報共有
- ・新潟市教育委員会と連携した対策の検討
- ・新潟市における緊急対応スーパービジョン制度についての検討

〈令和 4 年度～5 年度〉

- ・教職員向け人材育成プログラム「IDOBATA」の作成
- ・若年層における現状と課題についての情報共有

○教職員向け人材育成プログラム「IDOBATA」について

新潟市で、平成 29 年度に若年層対策の一環として「自殺予防のためのゲートキーパー養成テキスト」を作成し、その人材育成プログラムの中の 1 つとして IDOBATA を開発した。現在、若年層、多職種、保健師、薬剤師向けの 4 種類のカードがある。SOS の出し方、また、それを受け止める教職員の受け取り方や聞き方等の検討をしてきたが、教職員向けに特化した IDOBATA プログラムをワーキングの成果物として、小・中・高校学校での出来事の架空事例を基にプログラムを

作成した。

教職員向けのプログラムカードは、学校現場に特化したより具体的な事例を基にしており、複数のルールを用いてより取り組みやすいプログラムに改変している。本ゲームは自殺対策ゲートキーパー研修や学校の教職員向け研修などでグループワークを行いながら自殺対策について考える機会を提供し、様々な研修会でも活用できるものである。



4. 今後の取組について

令和5年度に開発したプログラムについて、モデル研修などを小・中・高校などの教職員を対象に研修を継続して実施し、効果を検証していきたいと考えている。今後も、教育委員会等と継続的に情報共有を図り、若年層が早期にSOSを出すことができるよう、SOSの出し方や、それを適切に受け止めることができるよう、教職員向けの自殺予防ゲートキーパー養成研修会について検討したいと考えている。

また、ワーキングチームにおいて、若年層から相談を受けた教職員等のスーパーバイズや、よりリスクが高い子どもについて専門職に相談できる体制など、相談者及び支援者をフォローできる体制づくりなども検討したいと考えている。